

「琉球列島のことば」

カルリノ・サルバトーレ(大東文化大学外国語学部日本語学科 助教)

=====
【要旨】(200字程度)

本講演では琉球列島で話されている琉球諸語の歴史、現状、日本語との関係、特徴を概観した。琉球諸語は琉球列島で話されている言語である。奄美語と沖縄語からなる北琉球語群、宮古語、八重山語、与那国語からなる南琉球語群に分けられる。琉球諸語は奈良時代以前に日本語との共通の祖先から分岐した、日本語諸方言の姉妹言語であり、日本語と唯一系統関係が示されている言語である。ただし、同化政策の結果、琉球諸語は若年層へ継承されなくなり、なくなる危機にある。

=====
【講演の概要】

琉球列島で話される諸言語のことは琉球諸語と呼ばれ、喜界島から与那国までという、かつて存在していた琉球王国の元領土で話されている。琉球諸語は北琉球語群と南琉球語群に分けられる。北琉球諸語はさらに奄美諸島で話される奄美語、沖縄諸島で話される沖縄語に分類される。南琉球語群は宮古諸島で話される宮古語、八重山語で話される八重山語、与那国で話される与那国語に分類される。琉球諸語は日本語(諸方言)の下位分類ではない。日本語と共通の祖先をもち、「系統関係」にある「姉妹言語」である。琉球諸語の祖先である琉球祖語と日本語諸方言の祖語は奈良時代に分岐し、その話者はおそらく圧力を受けて平安時代に九州から琉球にわたったとされている。琉球諸語は日本語とはもちろん、互いにも相互理解度が低く、多様性に満ちており、世界の言語の中でも珍しい言語現象がみられる。残念ながら琉球諸語の一般な話者は60代以上で、その下の世代は聞いたらわかるが話せない、そしてより若い世代となると聞いてもわからない。つまり若年層への継承が行われていない消滅の危機にある言語である。その背景に日本への同化政策がある。その継承と復興を保証するため、研究者が記述活動を進めるとともに、現地でその話者が話せる権利を守ってくれる、そして若い世代に学ぶ機会を与える具体的な政策も求められている。